

9回 全道展

目錄

6月

8-16



札幌



抱きしめたい 人生の春

40才頃から感じ始める活力の衰え…
脳下垂体前葉プレホルモンは、全身
のホルモンの泉をわき立させ、若々
しい活力をみなぎらせます。

★男性では……

精力減退（性ホルモンの自然な分
泌を促進します。一時的な精力剤
のみを乱用していると、一層疲れ
を増し身体を害します）

疲労倦怠・視力減・血圧異常・早
老現象・若はげ・神経衰弱

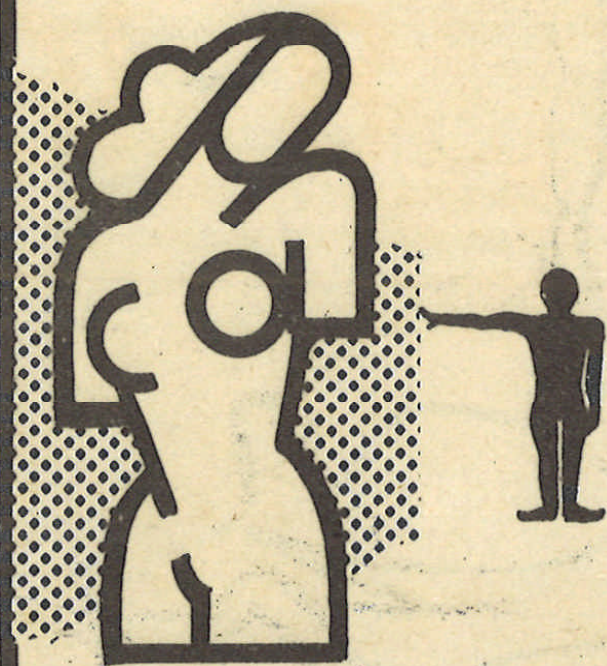
☆女性では……

更年期婦人の悩み（頭重・肩のこ
り・腰痛・冷え症・目まい・容色
の衰え）

月経異常・不感症・不妊症

★プレバラ戦法

「プレホルモン」を「パラエス」
で溶解して注射すると、一層効果
的！



男女両性に作用する

プレホルモン

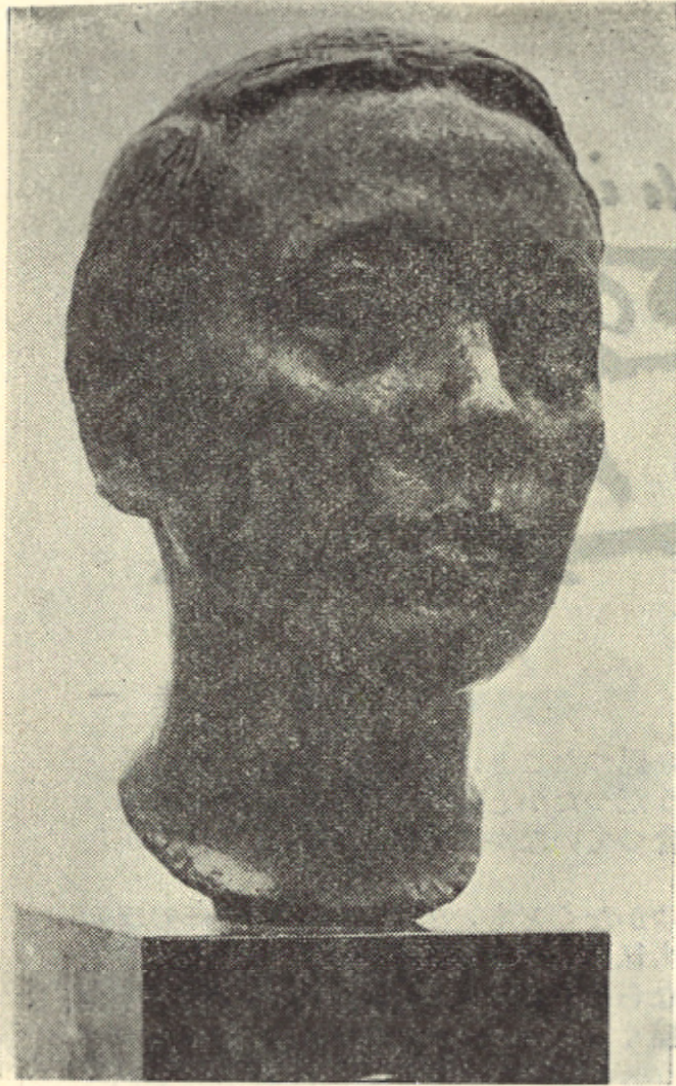
注射(各5管): 1500単位 750円 500単位 350円 100単位 150円
錠剤: 40錠 100錠

「プレバラ」: 1500単位 850円 500単位 380円 100単位 180円

(説明書送呈) 札幌市南一条西二 塩野義製薬株式会社札幌支店



SHIONOGI



朝倉撰の像

—アトリエという
—名のアトリエ—

佐藤忠良

僕はいつでも自分が作りたいと思う人がモデルになつてくれるのに都合のいいところへ出かけて仕事するので、アトリエには御無沙汰ばかりしている。そのかわり、いつでも誰かが幾人かで僕のアトリエを占領して勉強している。たまに顔を出すと知らない人がいたりする。だからといつて困つたという気にもならないし、特に人のためにいいことをしているという心持もおこらない。40歳になるまでアトリエも持てずに、人のところでばかりやつかいになつていたくせが身につくということになり果てるのかもしれない。

初夏の食卓

八木伸子

5月になると朝の食事の用意が楽しくなつた、青いきうりは生のまま、さやえんどうはバターいため、真紅の苺、白いお皿にそれぞれ盛つて私は食べてしまうのが惜しいような気持で眺める。自然はすばらしい作家だな——私は片一方の心で、ときどき何もかも無意味にみえ出す自分がおかしくなる。

今朝の食卓を、私は今日の日記をつけるような気持で描こうときめた。

鯨静物の弁

田邊謙輔

郷土をはなれて郷土を偲ぶ機縁になるものは、私の場合どうも味覚が外のどのことよりも先になるらしい。秋が近づいてくれば、とうきびの嗅いをなつかしがつてみたり、4月頃にはこちらの店頭で鯨の出るのをまちかまえる類いである。小生画く鯨の燻製はその長く保存にたえ色の変らぬところが気に入っているのではあるが、案外この味覚がもとになつているのかも知れない。



北の絵

居串佳一

終戦後5年程郷里の北海道に住んで、思つたことは北海道がうんと描けるということであつた。ところが実際はどうだつたかという燈台もと暗しではないけれども、今にして思うとピントが合つていなかったように思えて仕方がないのである。

セガンチニーのアルプス構想とまでゆかなくとも、望むところは、ほのぼのとした北海道のものであり、どうしても私達でなくては描けない一線がある筈であつた。これがもどかしくも何とかならないのかと日頃苦行する原因である。今まで多く北海道的なものを選んで描くことの多かつた私にはこの問題が片がつかないのである。

実はこの間東京駅に友人を見送りに行つた、西の方へ行くことのない私は東海道線乗場は久し振りのこととそして驚いたことには上野駅に集る東北北海道の客筋と大分異つた感じに当り前のことながらひどく感心した。そして上野の方にひどく親近感を持つた。これも当然であつた。上野駅にウロついていると北海道にあるような心地がよくするのである。

こんな自然なあたり前のことに気がつくのも東西の中心地である東京に住んでいるから、ということなのだろうか、北海道が描きたい近頃、北海道を離れて北海道を覗くと、かつて気のつかなくつたような北海道のものが思い浮んで好きになつてしまうのである。東京駅に向うよりも上野駅に向う方がいいのであろうか。

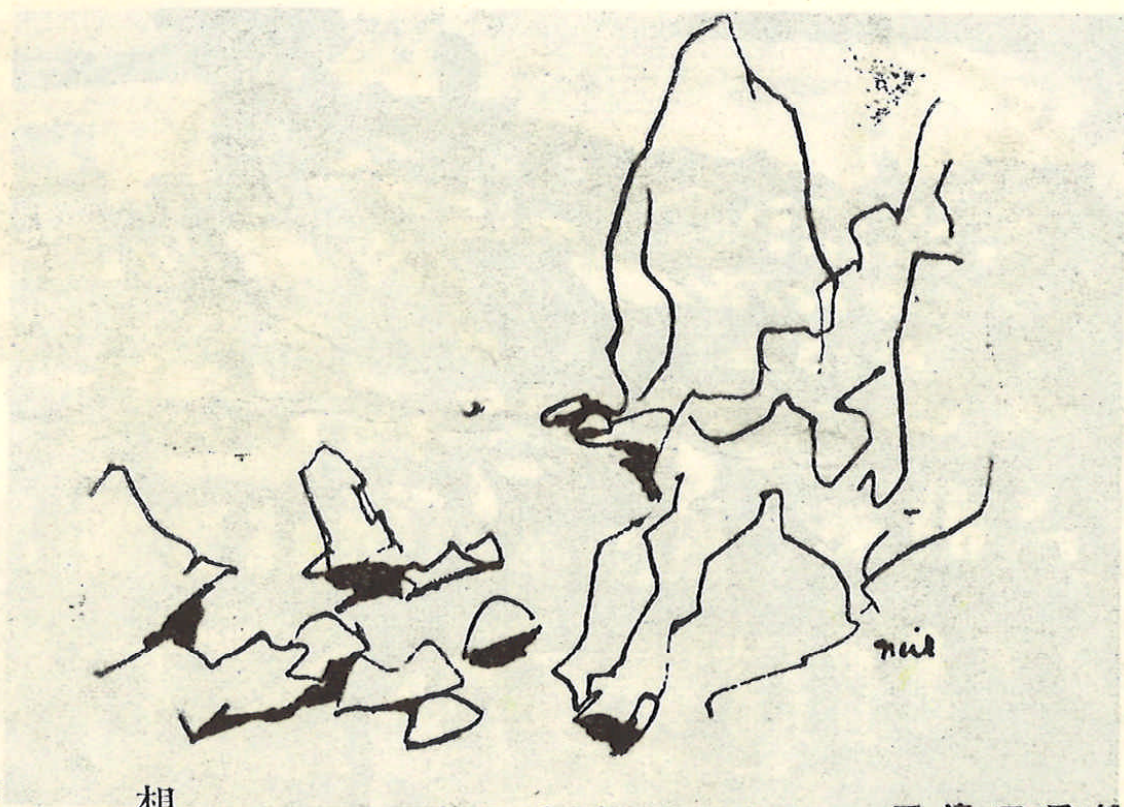
出品作に寄せて

谷口一芳

帆影の交錯する青い面を眺め、軽快なシブキのリズムを聞き、このムーブマンをモチーフとして自分のものに醗酵することなく終つた。

無限の制約に精進しよう。





随 想

田邊三重松

年がゆけば若いものがキザに見えてくるものらしい。そのくせ本人も若い時はキザであつたに違いない。おれも若い時はあんな絵をかいてグループを作つたものだよといつて下手な古い絵を描いている年寄もいれば、若い者の化粧だけを一生けんめいにして顔の厚ぬりだけで若いつもり年寄もある。考えればいずれも絵のかたちだけを見ていたのではなかつたか、結局本当に絵を描く腹がなかつたら何年描いても新しい絵も古い絵も何もかけないもののような気がする。

感 想 伊 本 淳

めまぐるしい世の移り変り
 ギラギラする走馬燈
 こんな時代に生きている私
 美校時代から一度は
 大和の国に暮して見たいと
 夢みた夢
 飛鳥という国を持つたことのある
 国
 現世に飛鳥の香りを探るのは
 私だけの夢か 夢。



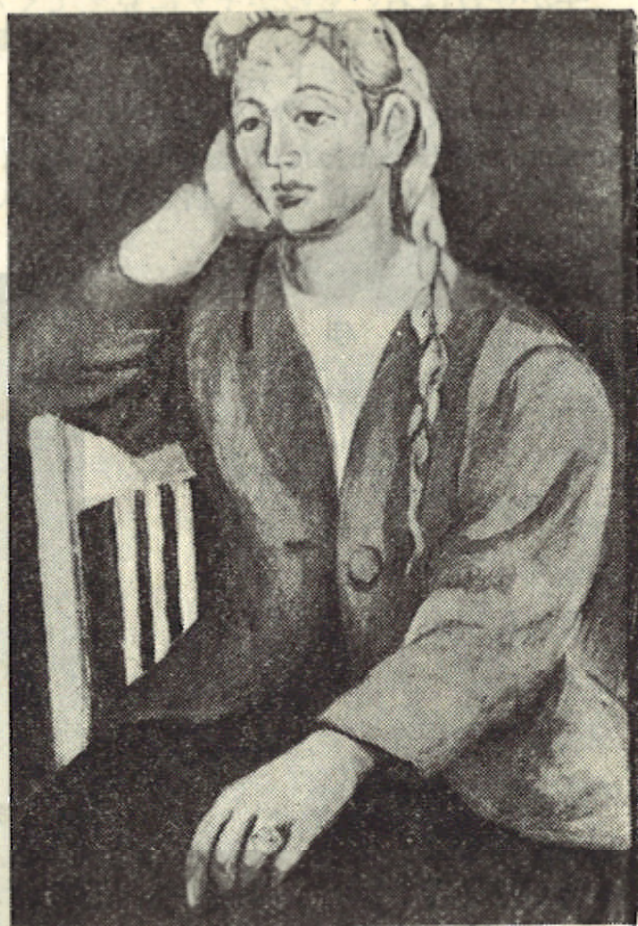


飛驒の家
田中忠雄

私の絵のモデルさん

松島鈴子

この絵のモデルは、髪の毛が黄色いけれど、真正真名の日本人で、ある無名の彫刻家の奥さんです。前には緑の黒髪を、櫛巻にして、黒っぽい地味な着物の似合う無口な人でしたが、戦後東京に帰つてみたら、髪を黄色くして人違いかと思つたほど明るい態度で、相変らず金には縁がなさそうなのに、陰というものが全くないのです。形式を変えるということは、こうも内容まで、変えてしまうものだとなれば、これはこの人なりの一種のレジスタンスなのかも知れません。それにしてもひどく勇気のいることだと、私は秘かにこの奥さんに感心しているのです。





花を持てる女

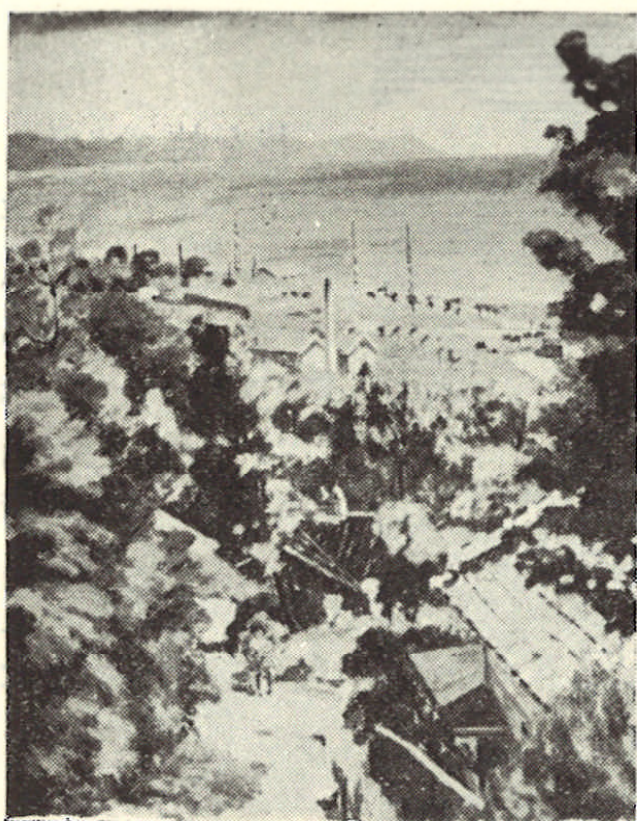
川上澄生

我が胸の片隅に一
の街景あり、鈍色の
屋根瓦波の如く拡が
り、河岸の並倉の白
壁は汚れ、川には荷
を積みし舟行きかう
見よ、花をたずさえ
たる婦は高き道に立
ちて何処を見つむる
ならんか。

雪上剪定 — 木 万寿三

裸の、りんごの古木というものは、不思議なかたちをしている。剪定している人達も、風や、雪や、凍害に傷めつけられた、古木のような感じである。





今年の作品について

池谷 寅一

今度の作品も、二点とも自宅附近の風景である。

「晴夏」は、函館山中腹の、東南に面した丘からで、函館公園内の図書館が見え、漁業無線の塔が見え、津軽海峡の戸井岬が見える。晴れた日の新緑のころは色々変化があつて、美しい。

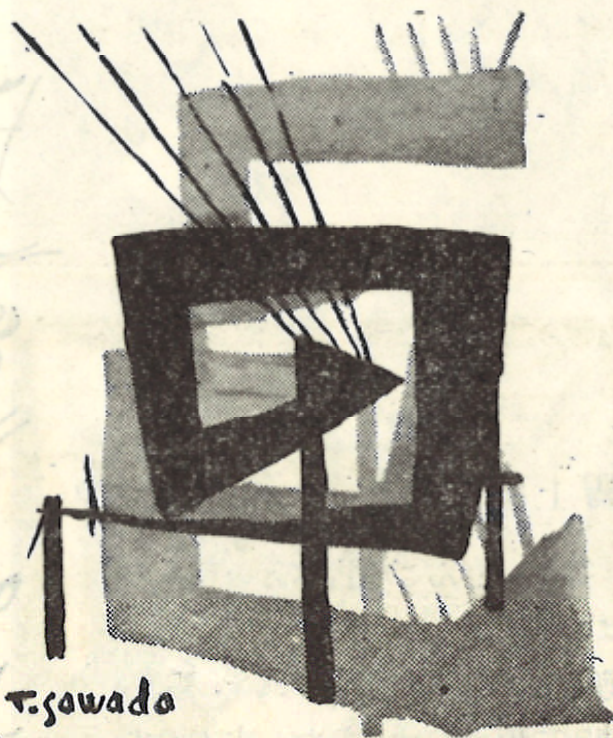
函館附近は、本州との樹木が入交つていて、奥地と違つた独特の色彩がある。この画面の風景中にも、黒松、唐松、ケヤキ、イタヤ、サクラ、桐、高野槇、クルミ、栗、イボタ等があつた。

实景を多少取捨変形し、現場と画室内とで、交互に描いた。

三年越しの絵

沢田 豊二

年から年中たつた一枚のキャンバスを相手にいろいろなことを考えながらいろいろなものを描いていたが、一向に発表できる段階にならない。放つておいてほかの絵にかかつても気がかりでならず描いてはつぶし描いてはつぶし回を重ねている中に画面はボコボコになり絵具のストックもなくなつて仕方なしに亜鉛華と煤煙とで絵具をつくり、エナメルを併用してやつて見たが、だんだんいけなくなるので遂に筆をおくことにした。下塗がルフラン、仕上げがエントツのススという 120 号の絵である。



T. Sawado

ガ	リ	ラ	ヤ	の	訓	会	員	田	中	忠	雄	東	京	都
夕	映	の	の	の	港	〃	〃	金	子	幸	正	函	館	市
晴					夏	〃	〃	池	谷	寅	一	〃		
丘					家	〃	〃	〃	〃	三	郎	〃	樽	市
樹					木	〃	〃	森	本			〃		
街						〃	〃	〃				〃		
ビ	ル				面	〃	〃	鈴	木	伝	松	〃	館	市
風	景				A	〃	〃	田	辺	三	重	〃		
風	景				B	〃	〃	〃	〃	万	寿	〃	部	乙
雪	上				定	〃	〃	一	木			〃		町
秋						〃	〃	〃				〃		
眼	の	な	い	い	魚(A)	〃	〃	国	松	登		〃	樽	市
眼	の	な	い	い	魚(B)	〃	〃	〃				〃		
港					男	〃	〃	小	川	原	脩	〃	知	安
船						〃	〃	〃				〃		
子					供	〃	〃	〃				〃		
暮					色	〃	〃	橋	本	三	郎	〃	館	市
倒					木	〃	〃	〃				〃		
歩					木	〃	〃	八	木	保	次	〃	幌	市
黙					劇	〃	〃	〃				〃		
二					人	〃	〃	谷	口	一	芳	〃		
帆					林	〃	〃	〃				〃		
黄	の	ジ	ヤ	ケ	ツ	〃	〃	高	橋	北	修	〃	旭	市
「ス	ペ	イ	ン	の	女」(A)	〃	〃	本	郷		新	〃	京	都
「ス	ペ	イ	ン	の	女」(B)	〃	〃	〃				〃		

額撮専門店

油彩・水彩・肖像
キャンパスと枠・各種撮

服部額撮店

札幌市北1西10 ㊦②6029

野焼裸	樹	火野群物	会員	遠	藤	未	満	苦	小	牧	市
山森	の	麓 (A)	〃	伊	藤	信	夫	札	幌	市	市
水椿	の	麓 (B)	〃	岩	船	修	三	函	館	市	市
枯裸	子	歌物	〃	山	内	壮	夫	東	京	都	市
人ひ	の	物	〃	東	〃	政	雄	函	館	市	市
春静	あ	花	会友	〃	内	忠	男	札	幌	市	市
ふよ	る	婦	〃	〃	〃	勝	衛	〃	別	町	市
水浅	ま	物 (B)	〃	詠	訪	七	郎	江	樽	市	市
(奨励賞)	わ	り	〃	千	葉	繁	雄	小	館	市	市
パン	の	景	〃	漆	崎	〃	豊	函	幌	市	市
チュ	函	物 (A)	〃	竹	内	〃	豊	札	館	市	市
ール	館	り	〃	平	内	〃	勇	函	幌	市	市
(奨励賞)	た	み	〃	〃	川	〃	〃	〃	館	市	市
暮	ど	庫	〃	松	田	〃	〃	美	唄	市	市
作	の	春	〃	谷	口	直	介	札	幌	市	市
作	倉	色	〃	〃	〃	洪	人	〃	〃	〃	〃
		品 (A)	〃	斎	藤	作	哉	〃	〃	〃	〃
		品 (B)	〃	〃	沢	〃	〃	〃	〃	〃	〃

ホルベインの洋画材料

Cholbein

習作用パイロン油絵具
ホルベイン専門家用水彩絵具

札幌

維新堂

四丁目

雨				後	藤	啓	八	郎	札	幌	市
魚	と	花	瓶	広	瀬	辰	辰	雄	〃		
ガ	ス	タ	ク	原		義	義	行	〃	平	町
夜		明	け	竹	岡	羊	羊	子	豊	幌	市
風			景	千	葉	松	松	子	札		
荒	寥	たる	地方	岡	田	悟	悟	郎	〃		
作			挽歌	佐	々	木	美	枝	〃		
			品(A)	砂	田	友	友	治	〃		
	(会友推薦)	鮭	とランプ	〃					〃		
雪	の	藻	岩	〃	原	卓	卓	也	〃		
作			品(A)	〃	谷			博	〃		
赤	い	風	景(A)	〃	荒			裕	〃		
構			成	〃	出	羽		雄	札	幌	市
階			段	〃	太	田	幸	子	〃		
選			逅	〃	中	島	富	美	〃		
果	樹	早	春	〃	石	田		徹	〃		
友			達(1)	〃	千	葉	光	男	〃		
壺			(A)	〃	芹	田	英	治	〃		
静			物(B)	〃	藤	野		薫	〃		
	ミルク	プラント	の	〃	高	石	玲	子	琴	似	町
矩	形	の	女詩	〃	小	野	州	一	札	幌	市
即		興	詩(A)	〃	吉	沢	康	子	〃		
苦	し	む	人	〃	橋	本		富	〃		
古	び	た	煉	〃	内	山	和	美	〃		
厨	房	の	人								

マツダ[®] 油絵具と洋画材料

練習用 12色 ¥ 300より

函入材料一式セット ¥ 1500~2500

代理店 札幌十字街 富貴堂文具部
TEL ③195番

藻 (知事賞)	岩 の	山 行 建 ビ	麓身進物ル家婦築街 静物	岸野 菅玉池倉谷 小野垣	明醇 三也助夫丞	札 函	幌 館	市
水土夜白裸建雪 (奨励賞)	【手 の い の		魚のある	田正之 沢内 野垣	稜拓之 国	〃	〃	
塩風花孤橋作 Rという文字のある		と見風	鮭景魚院景品 (C)	塚高竹箱五荻岡山志菅 〃	保政昭俊 藤和政惣守充	〃	〃	
窯踊 ランプと玉葱のある		り	子 (B)	口村野 〃	三信有 三信有	〃	〃	
二白ノ峡静 (奨励賞)	二 い ラ	建 ケ	人 (A) 人 (B) 物イ 物 (A) 影 (D)	三菅一安藤 〃	郎弘徳子 三信有	〃	〃	
						樽	市	

召
ま
せ
コ
ー
ポ
ー

産業レストラン 会館

ニューサツポロ

北一西 電話 (2)5359番

静	枯木	立の	ある	風景	(B)	森島	田林	喜一	昇昭	旭釧	川路	市市
枯	子	の	ある	物		小	野	隆	雄	〃	見	市市
椅		工		場		君	田	英	治	北	見	市市
古		の		港		成	口	榮	一	〃	沢	市市
雪	を	抱	いた	女		山	上		子	岩	見	市市
猫	イ	ン		ド		三	端		晤	〃	唄	市市
ウ	鳥	の		葬		河	浦		博	美		市市
小	と	少		年		北	原		晃	〃	寄	市市
花	女	と		ラン		木	崎		行	名	別	市市
黒	の			プ		宮	藤		弘	士	川	町町
(奨励賞)	メリ	ー		ラウ		伊	友		功	上	河	町町
客	土	の		景		大	口		夫	浦		町町
静	情	の		物		谷	木		義	〃		町町
詩	想			詩		伏	藤		夫	〃		町町
夜				緯	(B)	佐	川		郎	〃		郡郡
窓				品		鶴	守		実	〃		郡郡
北				り		濱	橋		義	中		市市
作	わ	の		町	(A)	久	谷		雄	夕		市市
に	砥			品	(B)	高	川		夫	函		市市
炭				品		長	常		明	〃		町町
作				物		〃	政		也	美		町町
作	上					横	嘉			俱		町町
船						酒	井					町町
鳩												町町



明るい雰囲気
 香り高いコーヒー

札幌南3・西3 TEL ③2658

ミレット

氷魚	と	鳥 (D)	田	福	井	正	治	勇	弘	郡
黄	の	物 昏	田	相	原	鉄	男	上	磯	郡
丘	静	景	田	可	兄	道	明	虻	田	郡
出	坂	町	田	角	田	治	義	厚	山	郡
サ	の	船	向	小	向	昭	一	池	岸	郡
滯	い	日	田	園	田	郁	夫	稚	田	郡
雨	ない	物 (C)	中	藤	中	周	平	江	内	郡
静	の	像	出	田	出	盛	夫	当	別	郡
	(彫)	品 (首)		平		公	裕		別	郡
朝	倉	女	員	佐	藤	忠	良	東	京	市
作	撰	作	會	伊	本	明	淳	藤	沢	市
鳩	の	君	員	本	川	虎	二	札	幌	市
首	女	湖	會	石	本	一	雄	札	幌	市
処		釜	員	山	川	治	也	豊	平	市
首	(版	婦 (A)	會	石	川	政	彦	札	幌	市
M	画)	婦 (B)	員	石	川	雄	郎	函	館	市
	王	ト	會	前	田	郎		志	志	市
蔵	火	窓	員	天	間	五	歌	内	内	町
蔵	お	閉	員	野	野	愧	歌	志	内	町
裸	夜	(工	員	浅	野	夫	歌	志	内	町
裸	の	芸)	員	佐	野	夫	歌	志	内	町
(奨	閉	瓶	員	藤	野	夫	歌	志	内	町
励	花		員	芳	野	夫	歌	志	内	町
賞)			員	夫	野	夫	歌	志	内	町
閉			員	夫	野	夫	歌	志	内	町
(工			員	夫	野	夫	歌	志	内	町
芸)			員	夫	野	夫	歌	志	内	町
花			員	夫	野	夫	歌	志	内	町

各 代 理 店

◇

株式会社 服部紙店 札幌市大通西二丁目 支店	紙製品事務用品文房具販売	千住製紙株式会社	東北パルプ株式会社	北日本製紙株式会社	本洲製紙株式会社	十条製紙株式会社	苫小牧製紙株式会社
--	--------------	----------	-----------	-----------	----------	----------	-----------



沈丁花咲く庭の絵について

西村喜久子

毎年秋の出品は10年以来庭を取入れた風景を描いていますがよくこれは何処かと聞かれます。それほど庭が主か風景が主かわからぬような絵を描き続けています。この出品画は春の光風会出品の連作ですが、私自身でさえよく倦まないものと思います。大体この庭の一隅を取入れるのですが大した広くもない庭が広大な庭になつて了つたり、一つの沈丁花なり朝顔なりが画布には全然別個の位置や形になりその方が非常に面白い雰囲気を持つてきてさながら庭をつくるのか絵をつくるのか等ということになつたり、その上少々困るのですが家の庭より絵の方が美しいこんな庭にしたいと思うと絵と同じような庭に自分でかえる。また春や秋にはそれがモチーフになり、できるとそれがモチーフになり庭が変わる。自分でも困ると思うけどついそうなるのですが風景を描くときも全然離れて空想の世界に入つて了う。大変な庭なら一たまりもないでしょうが、家の庭なら私の造園師で丁度手頃なので、それも拍車をかける結果と思います。





裸樹の群

伊藤信夫

太い1本の裸樹は男性的だ。なかなか面白い。風に雪に抗して肩をそびやかしているようだ。これにはまずボリュームを感じる。しかし、紫に群をなしてお互いに助け合いつつ春を待っているような裸樹の群にはやさしい美しさがある。私はこの北海道特有の雪と裸樹の群を北大の構内に求め、その中から線とフォルムの美しさを探そうとした。春が近づくにつれて梢に血が通い、紫は紅を帯びてくる。

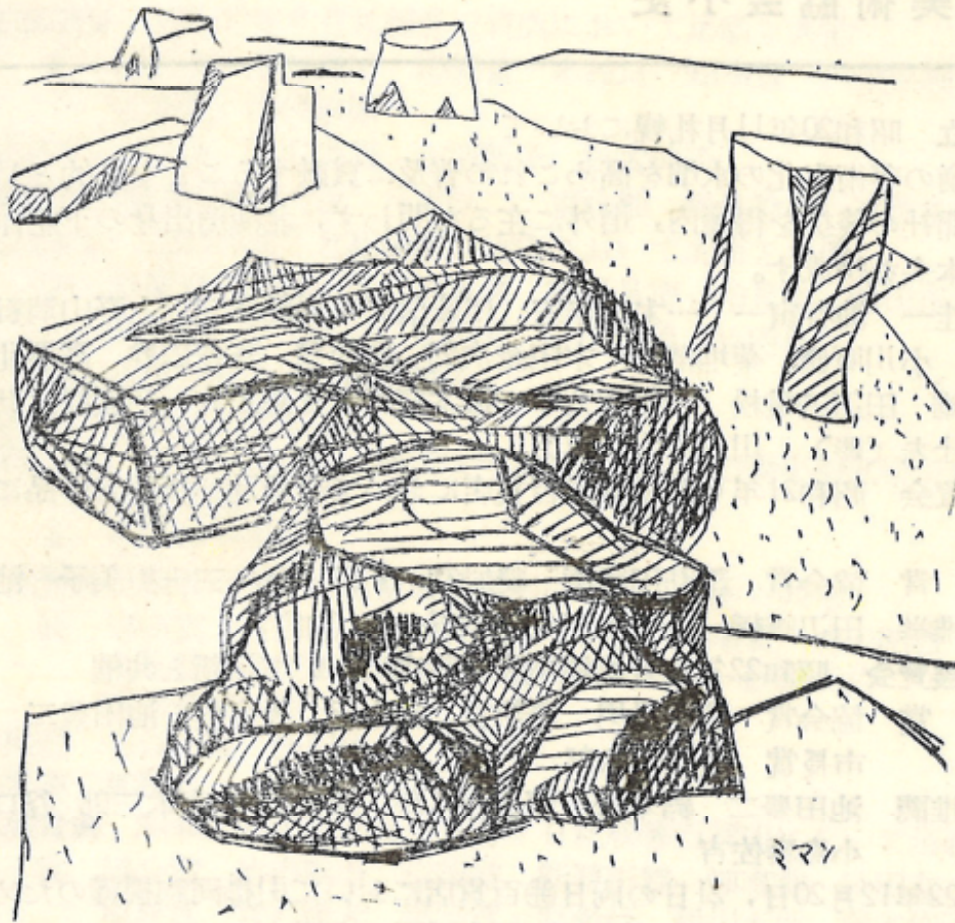
わたしのモデル

岸葉子

おりんご、みかん…一ツ一ツ形を吟味して買ってきて、描きはじめないうちに食べてしまう私は、いつまでも裸婦ばかり描いています。でもいつか男の人を描きたいと思いました。それで良人にモデルを頼みました。「いやだよ」といいました。サラリーマンの彼は疲れて帰ってくるのでしよう置にゴロリと横になつて「今ならば描いてもいいよ」といいました。「坐つて下さい」と頼んでも「横に描いて縦にしたらいいだろ」というのです。多分照れているのでしよう。それで私はもう頼まずに、こつそりにらんでいては描くことに致しました。

前頁 愛馬譜 (未完成)

上野山 清 貢



百聞百見

遠藤未満

去る日、展覧会で上京した。巨人一阪神戦があつたので2日見た。1勝1敗でまことに面白かつた、百聞は一見にしかずである。

ところでピカソの絵は一見しただけでよろしいか。否である。これはピカソの絵ばかりでない。近代絵画は相当の知的理解を必要とする。だから百聞の上一見した方がよさそうだ。しかし一見しただけでその絵の魅力が味わえるか。

百聞百見である。

不可解な絵を描く画家は、つとめて観者に対し、コンソツテイネイに百聞させる責任はあろうというもの——そして観者はまた、百見の勉強が大事。そうでなければ、画家と観者の溝はいよいよ深まるばかりだ。

もつとも、お前の描く絵は一見の値もないというのであれば、論の限りでない。

全道美術協会小史

創 立 昭和20年11月札幌において

北海道の美術文化の水準を高めこれの普及に貢献することを目的として北海道新聞社の後援を得道内、道外に在るを問わず、北海道出身の下記作家をもつて本会を結成す。

居串佳一 池谷寅一 一木万寿三 伊藤信夫 岩船修三 上野山清貢 小川マリ 小川原脩 菊地清二 木田金次郎 国松登 斎藤広胖 高橋北修 田中忠雄 田辺三重松 西村喜久子 橋本三郎 松島正人 三雲祥之助 山内壯夫(彫) 川上澄生(版)

創立展覽会 昭和21年6月札幌㊦百貨店において会員及び招待者作品により開催

受 賞 協会賞 諏訪田勝衛 奨励賞 石津ミヨ 三上恵美子 池田豊二
会員推挙 田辺謙輔 金子幸正 宮下貞一郎(工)

第1回展覽会 昭和22年8月札幌市㊦百貨店において道新と共催

受 賞 協会賞 菊地又男 道新賞 鈴木伝 長官賞 池田豊二
市長賞 渡辺伊八郎

会友推薦 池田豊二 鈴木伝 渡辺伊八郎 菊地又男 森本三郎 谷口玉二郎 小島真佐吉

昭和22年12月20日、21日の両日㊦百貨店において引揚同胞援護のため色紙、肖像の揮毫を行い益金1,400円を学生同盟に寄附す。

第2回展覽会 昭和22年11月札幌㊦百貨店において道新と共催

受 賞 協会賞 諏訪田勝衛 道新賞 国井澄 知事賞 大谷久子 市長賞
花谷時子 奨励賞 平川勇 金丸直衛 義江清司 漆崎繁雄

会友推薦 大谷久子 花谷時子 諏訪田勝衛 国井澄 平川勇

会員推挙 池田豊二 谷口玉二郎 鈴木伝 小島真佐吉 森本三郎

第3回展覽会 昭和23年8月札幌㊦百貨店において道新と共催

受 賞 協会賞 宮前文平 道新賞 漆崎繁雄 知事賞 田中祥三
市長賞 遠藤未満 奨励賞 松本伸子 八木保二 千葉七郎

会友推薦 伊本淳(彫) 漆崎繁雄 遠藤未満 山岡三秋(彫)

会員推挙 前田政雄 国井澄

札幌閉会後 函館㊦百貨店において開催す

第4回展覽会 昭和24年8月札幌㊦百貨店において道新と共催

受 賞 協会賞 松島鈴子 道新賞 小西葉子 知事賞 松本伸子
市長賞 天野宮蔵 奨励賞 小山内益郎 渡辺祐一郎 柄内忠男

会友推薦 角谷隆一 天野宮蔵 千葉七郎 八木保二 松島鈴子 東政雄

会員推挙 岡部文之助 本郷新 佐藤忠良 伊本淳(彫)

昭和24年10月苫小牧王子製紙クラブにおいて地方展開催

会 員 木田金次郎脱会

第5回展覧会 昭和25年8月札幌㊦百貨店において道新と共催

受賞 協会賞 鎌田雛子 道新賞 木村良 知事賞 三津谷理与子

市長賞 猪俣鉄雄

会友推薦 平川勇 柄内忠男 小西葉子 松本伸子

会員推挙 天間政五郎(版) 八木保二 東政雄 松島鈴子 遠藤未満

第6回展覧会 昭和26年7月札幌㊦百貨店において道新と共催

受賞 道新賞 谷口一芳 知事賞 前野昌市 市長賞 池田正之助

奨励賞 蛭子善悦 松田実 砂田友治 竹内豊

会友推薦 三津谷理与子 鎌田雛子

会員推挙 本田明二(彫)

札幌閉会後 小樽㊦百貨店 倶知安町学校 美唄市三菱美唄磁業所の三カ場
において地方展開催

会友 花谷時子脱会

第7回展覧会 昭和27年8月札幌㊦百貨店において道新と共催

受賞 協会賞 竹内豊 道新賞 蛭子善悦 知事賞 竹内昭吾

市長賞 池田正之助 奨励賞 岡田悟郎 砂田友治

猪俣鉄雄(彫)

会友推薦 谷口一芳 松田実

会員推挙 斎藤清

第8回展覧会 昭和29年7月28日～8月9日札幌㊦百貨店において道新と共催

受賞 協会賞 竹内昭吾 道新賞 能登正智 知事賞 砂田友二

市長賞 倉沢国夫 奨励賞 原義行 鶴川五郎 藤本俊子

会友推薦 竹内豊

会員推挙 谷口一芳 大谷久子 鎌田雛子 岸葉子 八木伸子

札幌閉会後旭川・美唄・函館において地方展開催

昭和29年11月大丸ギャラリーにおいて小品展開催

全道美術協会・会員・会友住所録

(1953.7.20 現在)

事務所 札幌市北16条東1丁目(本田方) 〒㊦ 3034

会 員

札幌市南14条西9丁目	谷 口 玉 二 郎
札幌市南13条西8丁目 ㊦1980	国 井 澄 夫
札幌市南3条西26丁目	伊 藤 信 豊
札幌市北17条西2丁目	沢 田 田 明 久
札幌市北16条東1丁目	本 田 谷 一 三
札幌市南8条西18丁目	大 谷 本 松
札幌市北1条西17丁目	谷 森 国 鈴
小樽市稲穂町東6 道新小樽支社内	池 谷 船 子
小樽市富岡町1	岩 金
小樽市松ヶ枝町34	
函館市谷地頭町75	
函館市谷地頭町29	
函館市時任町179番地ノ1	

函館市杉並町126
 函館市杉並町89
 函館市西川町6
 函館市西川町11
 函館市若松町100
 旭川市5条8丁目
 空知郡江部乙町駅前
 俱知安町南1条
 有珠郡伊達町梅本
 茅部郡砂原村会所町11番地
 勇払郡安平村遠浅
 東京都豊島区千早町2ノ11
 東京都豊島区千早町2ノ11
 東京都中野区沼袋町95
 東京都世田谷区経堂町421
 東京都練馬区上石神井2ノ831
 東京都北多摩郡久留米村南沢学園町
 東京都杉並区清水町160
 東京都下武蔵野町吉祥寺317
 //
 東京都中野区鷺ノ宮5ノ198
 //
 東京都世田谷区玉川中町1ノ976
 東京都杉並区上高井戸3ノ643 並木方
 横浜市南区堀之内町2ノ140
 東京都世田谷区世田谷2ノ1296
 東京都渋谷区代々木上原1177
 東京都世田谷区松原町3ノ804
 東京都文京区雑司ヶ谷83
 神奈川県茅ヶ崎市小和田浜竹45ノ3
 神奈川県藤沢市鶴沼7414
 宇都宮市大寛町宇都宮女高校内
 大阪府南河内郡日置荘町字西1062 太田由子方

会友

小樽市色内町4丁目17
 岩見沢市上志文
 江別町字美原
 茅部郡鹿部村 鹿部中学校内
 札幌市伏見町花園街
 函館市堀川町10ノ3
 函館市杉並町48
 函館市栄町1
 美唄市三菱美唄産業所
 札幌郡琴似町南発寒 鷺尾方

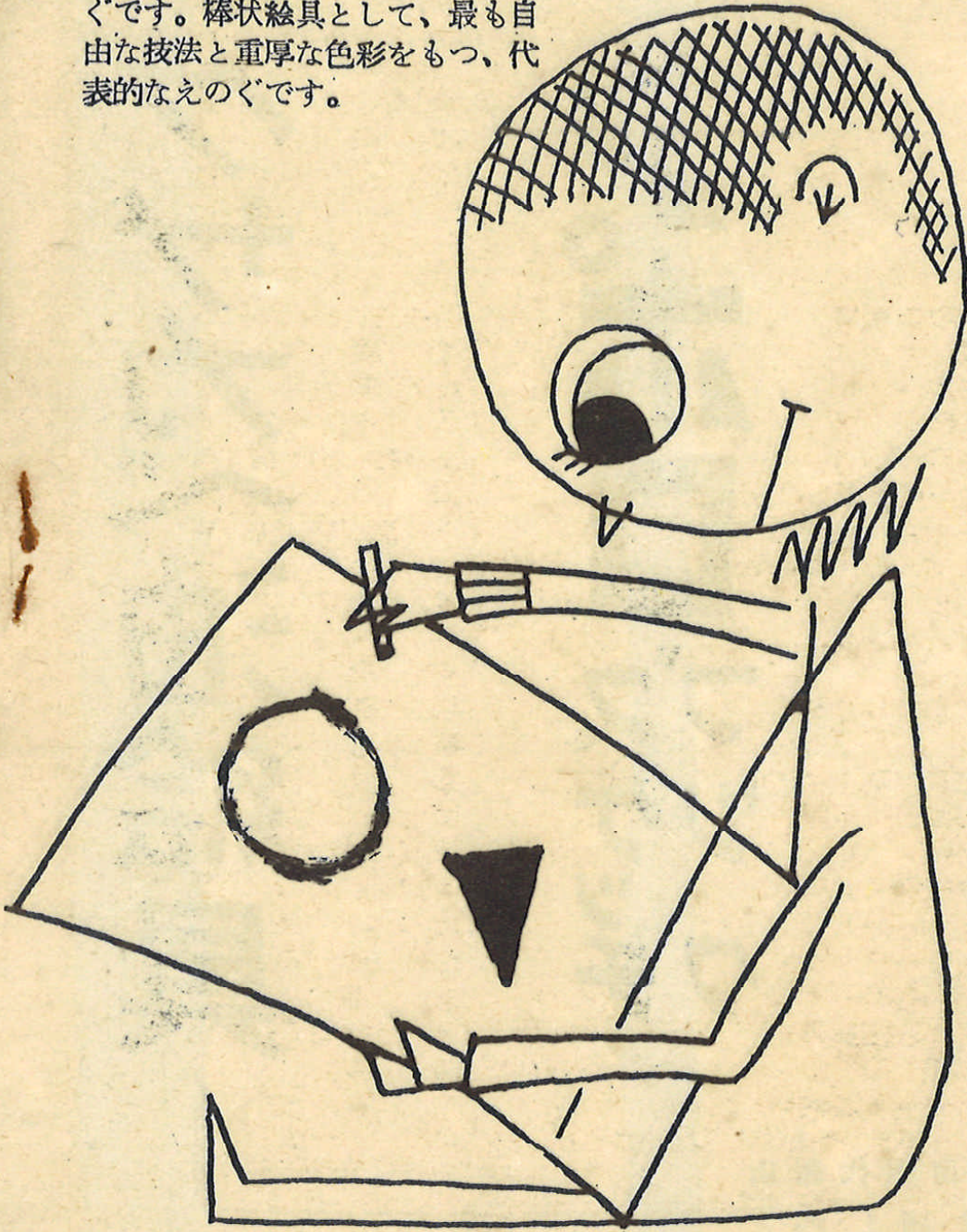
松郎雄郎子修三脩胖子滿二子貢夫吉雄助助リ人子二一輔新良雄清郎淳生子
 重三政五雞北寿 広久未保伸 清壯佐忠之マ正鈴精佳謙 忠政 一 澄葉
 三 政 五 雞 北 寿 広 久 未 保 伸 清 壯 佐 忠 之 正 鈴 精 佳 謙 忠 政 一 澄 葉
 本 間 田 橋 木 川 藤 村 藤 木 野 内 島 中 部 雲 川 島 島 地 串 辺 郷 藤 田 藤 下 本 上
 田橋東天鎌高一小斎西遠八八上山小田岡三小松松菊居田本佐前斎宮伊川岸
 千 山 謙 天 柄 漆 平 角 松 竹
 葉 岡 訪 野 内 崎 川 谷 田 内
 七 三 勝 宮 忠 繁 隆

郎秋衛蔵男雄勇一実豊
 七三勝 宮忠繁 隆
 葉岡訪 野内崎 川谷田内



クレパス本舗
櫻商會

フランス・アメリカをはじめ世界的に知られている日本独特のえのぐです。棒状絵具として、最も自由な技法と重厚な色彩をもつ、代表的なえのぐです。



さくらクレパス

代理店 内田洋行札幌支店・札幌富貴堂

クザカベ油絵具

ポ。ポ。ロ
ブスケツチ
ブツク

マツダ油絵具

北海道総代理店
札幌南1・西3

丸大